

・今までは政治について思うことは少しありましたが、思うだけで何も自分で行動出来ていなかったのので、陳情書を書いて役所で話すという行動に移す機会を与えてもらえてとてもいい勉強になりました。これからも世の中に反論していきたいと思います。実際に陳情を体験してみて、身近に起きている小さな問題でもこうやってたくさん大人の大人が関わって成り立っているんだとしてもっと当たり前のことに感謝して生きていかないといけないなと思いました。自分たちの模擬陳情は、ただ思ったことを言い合うのではなく、実際に起きている問題をどう解決していくかみんな的確な意見を出していて素晴らしいと思いました。しかし初回なので自信がなく声が少し小さかったと思います。自信を持って言えれば意見の信頼度も高まると思います

・学習する前は陳情とは何かも知らなかったが、学習してみて陳情が何か、なぜ大切なのか、陳情することで何が変わるのかなど、いろんなことが分かり、知識の幅も広がった。模擬陳情を体験してみて、普段市の職員さんや議員さんがどれほど大変なことをしているかが分かった。発言する内容も自分の考えたものと比べてしっかり、まとまっていて、的を得てる気がした。また、市の職員さんや議員さんなどの方々が普段どれほど大変なことをしているのが体験を通して知ることができた。模擬陳情で感じたことは、陳情の賛成、反対についてもっと深く調べて意見を述べればもっと良い模擬陳情ができたのではないかと思った。

・もともと政治についてはあまり興味がなかったというか政治について詳しく知らなかったのですが、この授業を通して新たな知識が身につくという「陳情する」とはどういうことなのかを理解し、その重要性も理解することができました。初めての経験だったのですが、実際にはこうやってやっているんだということを感じることができてとてもいい経験になりました。またグループの子たちとも自分たちなりの意見を主張し、発表することができたので良かったです。

・政治学には全く興味もなく政治家とかは変なおじさんがやるものだと思ってあんまり良い印象はなかったけど、この授業を受けてみていろんな言葉を知ったり動画を見たり実際に陳情を体験してみたり普通の大学では経験できないことができたから良かったです。

・学習する前は、政治についての知識が全くなかったのでも、興味関心がなかった。しかし、政治について勉強してからは、今まで知らなかった、知識をたくさん知ることができた。例えば、「陳情」という方法です。今まで暮らしてきて、ここ変えてほしいと感じたことが多くあった。しかし「陳情」という方法があることを知らなかったのでも、行動に移すこともできなかった。でも「陳情」という方法を聞いてからは、そんな方法があるのだと驚いた。なので、政治について学んだおかげで「陳情」みたいに、私の知らない方法などがもっとあると分かり、少し政治に興味関心が増えた。実際に市役所に出向き、本当に貴重な体験ができて嬉しかった。このような体験ができる人はそういないと思うので、本当に感謝している。また、このような機会がなければ、この場でどんな人が集まり、どんな話し合いをしているのか等、考えようとしなかった。なので実際に現場に行き、体験できてとても勉強になった。

・最初は時間割を埋めるために「政治学」を受講しただけだったので、単位さえとることができればいいと思っていて政治に全く関心がなかった。しかし、陳情など授業を受けていく中で政治とは自分たちが生きやすく過ごしやすい環境にしていくために話し合いをしたりして、よりよい社会にしていくために必要なことだと思った。また自分とは反対の意見の人の話を聞くことができるため面白いと思った。少し政治に関心を持てた。「模擬陳情」では話し合いの難しさを感じた。反対意見や賛成意見を聞いたりして納得したり、反対意見はこ

ういうところに注目しているのかと感ずることができた。

・私が「政治学」の授業で一番楽しかったのは、やはり瀬戸市議会でみんなと模擬陳情をしたことです。瀬戸市の大事なことを決めるのに、普段から使っている場所を、私たち学生に使用させてくださり、一生に一度行けるかわからない場所で、とても貴重な体験をすることができました。

・最初は陳情しても話は聞いてもらえない、適当に流されるだけだろうと思っていました。しかし、小学生の「ぼくらが陳情したわけ」を学んで、ちゃんと議会で審査されていて感心しました。小学生相手だから適当に対応するだろうと思っていました。議会の陳情の現場を一度は見に行ってみようと思いました。陳情という制度を知れて良かったです。

・最初は「陳情」という言葉すら知らなかった。どうせそんな事する機会無いだろうと思っていた。しかし、実際に「模擬陳情」をしたことによって、その場の雰囲気や職員の方が向き合ってくれていることに感動し、興味がわいた。興奮と緊張をととても感じた。普段だったら絶対行かない場所で、会うこともない市の職員さんや議員さんたちの前で意見を述べる経験ができた。軽く受け取るんだろうと予想していたが、うなずいたりメモを取ってくださったりしている姿を見て、こんなに真剣に聞いてくださっているんだと感動した。是非自分の住んでいる地域でも陳情したいと思った。

・誰もが体験できることではなく、本当に貴重な体験をさせていただきました。普段政治に興味もわからず、他人事のように捉えていたことも、自分たちでも陳情ならば意思表示や提案を積極的に行うことができるので、今後機会があればこの経験を生かしていきたいと思いました。

・模擬陳情を経験して思ったことは、陳情するならしっかり下調べをしないとダメだと思いました。なんで陳情したいか、他の県や市町村などで似たようなケースでどのような政策を採用しているのかなど、しっかり調べて陳情することが大切だと思いました。

・陳情をする内容について、様々な観点からより具体的な情報を持って会議に参加する必要があることを知り、とても大変だと感じました。簡易的ではありましたが議員さんの方たちがやっていることを体験できて良かったです。

・模擬陳情を体験することで、いろいろな課題や問題に対する実感が生まれ、政治参加の重要性を感じることができました。個々の声が政策に影響を与えることを実感し、社会への貢献の一環として、積極的な政治参加が大切だと思いました。

・「模擬陳情」は、貴重な体験ができ、とても良かった。普段の議員さんの仕事がどのようなものかわからなかったが、今回の体験で少しわかった。体験を通して、陳情が大変なのだ知った。一から調べて、時間をかけて文章を考えてやったので、市民が市を良くするために動くことの大変さがわかった。自分の代わりに動いてくれる議員さんを真剣に選ばなければいけないと思った。

・陳情が可決されるためには、様々な点でのメリットが必要だと感じました。陳情というのは、一部の人にとってはプラスの要素が多く、一部の人にはマイナスの要素が多いです。どの立場の人にとってもメリットがあることが、可決への近道だと感じました。また、予算の

面であったり、環境面など人間に対して以外の面も考えたりしなければならぬと感じました。陳情を考えることで、誰からも賛成されるというのは難しいと改めて感じました。よく「とりあえず選挙に行こう」という言葉を耳にします。しかし、知識も制度も知らない人がなんとなく票を入れることが、本当に国民が目指す国づくりとは言えないと思います。私たちが良い国づくりを目指すのであれば、正しい知識を持って、見極める目を持ち、選挙活動に参加したいと感じました。